

プログラム名	現代世界建築を展望するー3	認定CPD	2単位
開催日	2018年11月2日(金) 18:10~20:10		
開催場所	ウィンクあいち 1201大会議室(名古屋市中村区名駅4丁目4-38)		
講師	建築ジャーナリスト 淵上正幸氏		
担当理事	企画委員会 代表理事 西井信幸	その他	
参加者	NSK会員及びその所属43名,一般60名 計103名 二次会 24名 (NSK関係15名,一般8名,スポンサー1名) スポンサー企業8名,合計111名(定員100名)		
備考	協賛(株)LIXIL 後援(公社)愛知建築士会,(公社)愛知県建築士事務所協会, (公社)日本建築家協会 東海支部愛知地域会		

早くも今まで9回目、9年目の淵上講演会である。今回の参加人数はゆっくりとした出だしにも関わらず、今まで最高の111名であった。この現代建築の講演も名古屋に定着してきた感がある。表題は『現代世界建築を展望するー3』とあるが、現代建築の講演をシリーズで行ってきたので正確には9というべきであろうか。

又、冒頭において淵上さんが今年度の日本建築学会文化賞を受賞されたので、お祝いの花束をお渡しした。いつもの柔らかい淵上正幸氏の語り口で会議室は魅了され、あっという間の2時間であった。

内容は現代建築家10名の作家とその作品である。

まず1.トーマス・ヘザーウィックから始まり、2.フクサス、3.エノタ・ミラン + トマック & ディーン・ラー、4.ビヤルケ・インゲルス、5.デイラー・スコフィディオ + レンフロ & ゲンスラー 6.MVRDV、7.ザハ・ハディド、8.オーレン・シェーレン(OMA)、9.スノーヘッタ・アーキテクト 10.ジャン・ヌーベルの10人の最先端の現代建築の作品が紹介された。特に印象的だったのは7の今は亡きザハ・ハディドがサウジに建てたカブサルクという石油研究・調査センターで、礼拝所も備えており、砂漠の環境に対応した細胞の増殖のような六角形の特異な形状をしている。もう一つは8のオーレン・シェーレン(OMA)のシンガポールに建てたいくつかの集合体のマンションだが、16.5m×70.5mの一つの住棟を組み合わせ、その形の六角形を基本としており、ずらしたり間を空けることで広場を取り込み、巧妙に空間をデザインしているのが面白かった。

あとは、最後のジャン・ヌーベルのアブダビに建てられた直径180m半円形・パラソル型の施設で、ルーブル初の国外美術館『ルーブル・アブダビ』である。その施設はアラブの伝統文化を意識してデザインされており、展示室を繋ぐ部分は半屋外空間として光の雨をイメージして造られていた。総工費1,000億円という規模の点からも興味深かった。

以上、常に最先端の建築を紹介してくれる淵上氏の講演会も来年で10回、10年目を迎える。一応区切りとして終了するのか、もしくはどこかのスポンサーを見つけて継続していきたいのもである。

1.会場風景



2.淵上氏へ花束を贈呈



